

## 令和4年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカーズプログラム前期(オンライン) 最終レポート

古賀杏奈

先日、プログラムの集大成となる成果発表会がオンラインで開催され、令和4年度前期のOSGSプログラムが終了しました。このレポートを書いている今も、「終了した」という文字を打ちながら、改めてプログラムが終わりを迎えてしまったことに寂しさを感じています。このプログラムに参加させていただいてからの5か月間、私はたくさんのことを学び、自分の世界を広げることができました。今回のレポートでは、この5か月間で私が新しく得たことについて、プログラム全体を振り返りながらお伝えしていきます。

### “More than Words”を通して学んだこと

私たちは昨年8月から“More than Words”をテーマに、言葉をこえたコミュニケーションについて、文化や価値観の違いという視点から探究してきました。このプログラムに参加する前の私にとって言語や言葉というのはコミュニケーションに必要不可欠なものであり、正直なところ、言葉をこえたコミュニケーションというテーマをあまり理解することができていませんでした。しかし、プログラムを通してアメリカと日本の違いについて考えていく中でそれまで知らなかった文化や視点に触れたり、フィンドレー大学に通うパートナーとの実際のコミュニケーションの中で互いの違いについて気付いたりすることで、言葉のその先にあるコミュニケーションとは、互いの違いを受け止めて尊重していく姿勢であるということ学びました。

実際に私が経験した例としては、意見の出し方の違いが挙げられます。探究内容を発表するファイナルプレゼンテーションの準備をしていたとき、私はパートナーであるShelbyが作ってくれた発表資料のデザインを見て、少し変更を加えた方が分かりやすくなると感じたのですが、個人の感覚が関わることについて指摘すればShelbyが自分の感覚を否定されたと感じてしまうのではと考え、結局何も言及できませんでした。しかし私が作った発表原稿の間違っていった部分に対してShelbyは、はっきりと「ここは違うと思う」と意見を言ってくれました。日本人は世界の人と比べて自分の意見、特に相手と異なる意見を主張することが苦手であるといわれています。だからなのか、Shelbyが私の原稿に対してはっきりと意見を言ってくれたときに、自分の解釈のずれを教えてくれたことに素直に感謝しつつ、少しだけびっくりしました。

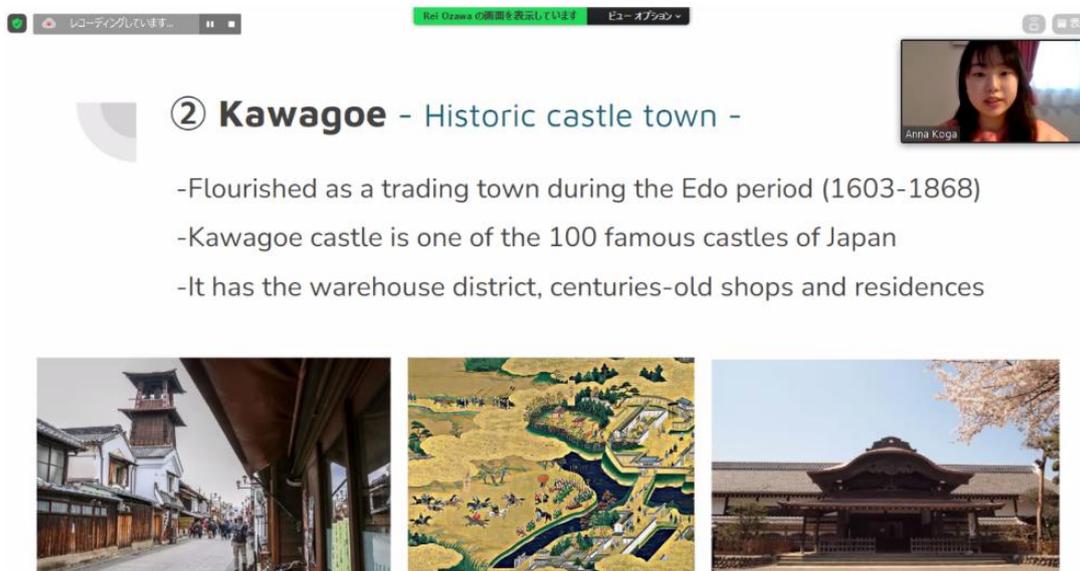
このように、婉曲な表現を好む日本の文化と、よりよいものを生み出すために直接的な表現ではっきりと自分の意見を主張するアメリカの文化では、意見の出し方の違いやそれに対する感じ方の違いがありました。違いがあることは全く悪いことではなく、形成されてきた文化が異なることを踏まえると、違いがあるのは当たり前のことです。ただ、やはり実際にその違いを体験してみると相手の対応に対して疑問をもったり、私のようにびっくりしたりするかもしれません。そんなときに求められるのが、言葉を越えたコミュニケーション、つまり文化の違いを踏まえてそれを尊重する姿勢なのです。

また、本来ならば実際に現地に留学しなければ体験できない、異なる文化のもとで生活してい

る人や自分とは異なる考えを持った人とのコミュニケーションを通してこのような学びを得ることができたことは、OSGS プログラムならではの魅力であると感じました。

### 「埼玉代表」として世界と関わる意識

先日開催された成果発表会では、フィンドレー大学の学生や日本に訪れたことがある海外出身の方などグローバルな視点を持ったゲストに向けて、私たち OSGS プログラム参加者が埼玉親善大使として活動してきた内容や埼玉県の良いところを世界に発信するために、実際にメンバーで訪れた場所の歴史や食などの情報を含めた魅力の紹介をしました。発表の中で、昨年 12 月にメンバーで訪れた川越の魅力を紹介する担当だった私は、発表準備をする中で改めて自分が「埼玉代表」として世界の人々と関わっていることを実感しました。当たり前のことではありますが、世界の人々、例えば探究活動でのパートナー-Shelby にとって私は「埼玉代表」、さらに言えば「日本人代表」なのです。日本に住んでいるわけではない世界の人々にとって、日本や埼玉県の魅力直接的に知ったり、イメージを持ったりするものとなるのは、その場でその人と関わっている私しかいません。それをよく理解して、「自分が世界に発信する」という意識を持つことこそが本当のグローバルスピーカーになるということなのだろうと埼玉親善大使としての活動を通して気づき、同時に海外のことばかりにアンテナをはるのではなくて自分の地域や国の文化や魅力を発信できるようにしておくことがこれからの国際的な交流において必要となるということを考えました。このような自身の中での気づきを忘れることなく、これからも埼玉県の魅力についての研究を続け世界に埼玉や日本の魅力を発信していきたいと思えます。



② Kawagoe - Historic castle town -

- Flourished as a trading town during the Edo period (1603-1868)
- Kawagoe castle is one of the 100 famous castles of Japan
- It has the warehouse district, centuries-old shops and residences

写真：成果発表会で川越の歴史について紹介している様子

## プログラムを通して得た新たなコミュニティ

プログラムを通して私のコミュニティは大きく広がったと感じています。それまで学校というコミュニティにしか所属しておらず、自分の世界が狭いと感じていましたが、プログラムの中でフィンドレー大学のグレッグ先生やパートナーの Shelby、そして5か月間一緒に活動してきたメンバーなど、普段の生活では関わることのないような様々な年代や背景を持った人と交流を持ったことで、たくさんの刺激を受け、今私が生きている世界は以前よりも大きく広がりました。

Shelby とはプログラムが終了した今でも、月に2回 Zoom でミーティングを続けたり、手紙と一緒にお互いの国の本やお菓子を送りあったりと交流を続けています。いつか Shelby を日本に招待したり、私がアメリカに行って Shelby やグレッグ先生に実際に会ったりできる日が来ることを楽しみにしています。私の知らない世界を教えてくれるとともに、私の生きている世界にも興味をもって接してくれる Shelby と出会い、友達になるきっかけとなったこのプログラムには感謝してもきれない思いです。

もちろんメンバーとの交流も続いています。最近ではメンバーの紹介で英会話サークルに招待していただき、さらなるコミュニティの拡大・発展によって自分の世界が広がる可能性を感じています。このプログラムに参加する前の私は、新しいことに挑戦することがあまり得意ではなく、知らない人と交流することにもそこまで意欲がありませんでした。しかしプログラムに参加したことで自分の世界が広がる喜びを知り、今ではさらなるつながりを追い求め続け、常に次のアクションについて考えるようになりました。ここで得た人とのつながりを大切に、これからもより広い世界で新しいことに挑戦し続けたいと思います。

## 最後に

今、このレポートを読んでくださっている人の中には、留学に行きたいけれどできなかつたり、なにか新しいことに挑戦してみたいけれどそのチャンスがつかめなかつたりという状況にやるせない思いを抱えている方がいらっしゃるかもしれません。私は、コロナ禍で実際に海外に行くことが難しくても、日本の外のことについてや普段の生活では得られないような新しい視点について知りたい、という自分の熱意と時間を無駄にしないためにこの OSGS プログラムに参加しました。そんな私がプログラムを終えた今思うのは、挑戦したい、新しい何かを得たいという強い思いや熱意があれば、挑戦する場に関わらず、様々な学びや新しい世界を手に入れることができるということです。私の場合は留学できないからこそ、今できることに全力を注ぐということに最大限に集中することができました。挑戦をあきらめない気持ちが一番大事だということは私がこのプログラムの参加を通して強く感じたことです。私のレポートが、今後このプログラムへの挑戦を考えているみなさんの参考になればうれしいです。

この5か月間、私をサポートしてくださった埼玉県国際課のみなさん、グレッグ先生、川村先生、そして一緒に活動してくれたメンバーに心より感謝申し上げます。これからもこのプログラムで得たことを生かして日々成長し続けたいと思います。

5か月間、ありがとうございました。

